

3.3 小学校高学年 (7)

III 地域の津波被害を考える 「津波から地域を守る対策を知ろう【2】」	
指導する学年	小学校5年生
指導する時間 (時数)	総合的な学習の時間(1時間)
教育目標	津波警報や避難勧告、緊急地震速報のシステムや意義を知り、それらをどのように活用すればよいのかを理解する。
資料する資料	【動画-08】想定東海・東南海・南海地震津波 Sim 【動画-17】2008年岩手・宮城内陸地震時の緊急地震速報 【資料-09】津波・避難情報、緊急地震速報、Jアラート 【資料-13】津波避難率
関連する 教科・行事等	【行事】授業参観 【小5社会】くらしを支える情報 【行事】児童朝会

【導入】-----

- (1) 地震が起きたあと、テレビやラジオでどのような情報が放送されるのかを発表し合う。
地震や津波に関する情報、避難に関する情報、緊急地震速報などいろいろあることを確認し合う。



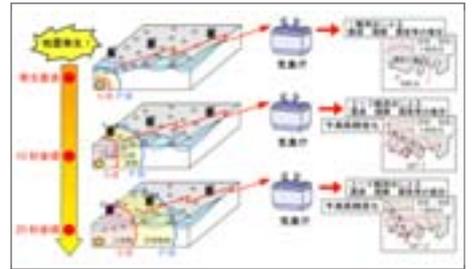
→最近発生した地震時の様子などを例にだして、そのときの様子を子どもたちに発表させる

- (2) 学習課題を把握する。

【展開】

(1) 津波警報、避難勧告、緊急地震速報、Jアラートがどのようなものなのかを知る。

- 緊急地震速報は、どのように放送されるのかを動画で確認する
- 緊急地震速報が発表されたら、身の安全を確保する行動をとることを確認する
- 釜石では、発表された津波情報の内容によって、どのような避難情報が発表されるのかが決まっていることをおさえる
- 津波情報・避難情報が発表されたら、避難する必要があることを確認する



【資料-09】 [4枚]
津波・避難情報、緊急地震速報、Jアラート

(2) これまでの津波警報時、避難勧告時の避難人数や割合を知る。

- 情報が発表されたとしても、なかなか逃げられないことを、子どもたちの経験を振り返らせることからおさえる

(3) どうして避難する人が少ないのか、その理由を考える。

- ①小さい津波が来るといいう情報だったから
 - 場所によっては大きな津波が来る可能性があるので、逃げなさいいけない
- ②家の人が「大丈夫」と言ったから
 - みんなを引っ張って避難するくらいの気持ちが必要

たとえ大きな地震が発生したり、避難勧告が発表されても、多くの方はなかなか避難することができない！

① 宮城県気仙沼市の例 (とても大ききゆれたのに・・・)
 ・平成19年5月26日 18時24分 宮城 宮中を震源とするM7.0の地震発生
 ・津波警報や避難情報が発せられたが、気仙沼市は避難勧告が発表されず、気仙沼市民の津波避難率は・・・わずか1.7%

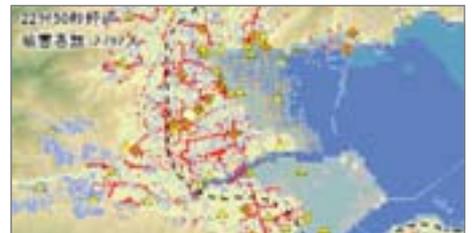
② 三重県尾鷲市の例 (1日2回地震があったのに・・・)
 ・平成19年9月5日 19:00頃 紀伊半島沖を震源とするM6.9の地震発生
 ・尾鷲市では震度の4を観測し、津波注意報が発せられた
 ・尾鷲市での津波避難率は・・・8.4%

③ 釜石市の例 (津波がたかくさん救助されたのに・・・)
 ・平成18年1月1日 20時5分 千島列島を震源とするM8.2の地震発生
 ・釜石市ではほとんどが逃げなかったが、津波注意報と避難勧告が発せられた
 ・津波の被害を受ける可能性がある地域のうち、家族の誰かが避難したのは、わずか8.7%

【資料-13】 [4枚]
津波避難率

(4) 津波シミュレーションを見て、1分1秒が命取りになることを理解する。

- 避難を開始するタイミングをはやくすることで、犠牲者が減っていくことを確認し、はやく避難することの大切さをおさえる



【動画-08】 [1:00]
想定東海・東南海・南海連動地震津波sim
【1】市街地周辺

【まとめ】

- (1) 学習して気付いたことをプリント等に記入する。
- (2) 感想等を発表し、今日の学習をまとめる。

【確認】

- (1) 津波情報や避難情報にはどのような種類があるのかを知ることができたか？
- (2) 情報が発表されても、実際に避難する人が少ない理由を知ることができたか？
- (3) 情報が発表されたら、どのような行動をとればよいのかを知ることができたか？